

たか、し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

知 覚 動 考

校長 加納 直樹

早いもので、令和4年度がスタートして2か月が経ちました。ここに来て、新型コロナウイルス感染の波も収まりつつあります。しかし、初夏の暑さを思わせる日差しに熱中症も心配です。

今月28日土曜日は体育学習発表会です。今年度の体育学習発表会のスローガンは「協力し、限界突破、やりとげよう!!」です。限界突破とは、もうこの上はない、これ以上は無理、これ以上できないという、限界を打ち破る ということですが、もし簡単に打ち破れたとしたらそれは、限界ではなかったということになります。

どんな人にも、これ以上は無理、これ以上できないという限界はあるものです。しかし、個人では限界でも、仲間と協力することでその個人の限界を越えられることはよくあります。

例えば、襷をつないで長い距離を走る駅伝競走では、仲間からつないだ襷を途切れさせるわけにはいかないと、一人では到底走れないような山道だとしても、ものすごい速さで走って登り切ることができます。上手に跳ぶことができなかった長縄も、長縄大会優勝に向けてクラスで協力して練習する中で、上手に跳べるようになった子を何人も見てきました。自分1人では限界だと思っても、友達と協力することでその限界を突破する。そんな体育学習発表会にしたいというメッセージが、今年のスローガンには込められています。体育学習発表会の本番だけではなく、毎回の練習時間に限界を突破し続けて頑張ってきた子供たち。もう無理と思っても友達と協力することで、その上に、その先の目標に向かって練習に取り組んできました。「協力し、限界突破、やりとげよう!!」のスローガンを見事に体现し、笑顔がはじける体育学習発表会になることを切に願っています。

さて、タイトルの「知覚動考」は本校の目指す「自ら未来を切り拓く、心豊かでたくましい児童」につながる言葉です。文字通り、「知って→覚えて→動いて→考える」という流れを表しています。いくら気付いても、いくら考えても、動かなければ結果は変わりません。つい何気なく「無理だし」「どうせできない」「やっても意味がない」「できなくても仕方がない」など、言い訳の言葉を使ってしまうことがあります。まずは、やってみる。行動に移してみるのが大切です。あれこれ考えても、結局失敗を恐れて挑戦しないようでは、いつまでもできるようにはなりません。また、行動した後、しっかりと振り返りを行うことも忘れてはいけません。評価・反省こそが、次につながる第一歩なのです。

この「知覚動考」は別の読み方をすることもできます。「知」は「とも」、「覚」は「かく」、「動」は「うご(く)」、「考」は「こう」、続けて読むと「ともかくうごこう!!」となります。

「ともかく行動してみる。」そこから変化が生まれます。

本校の目指す「自ら未来を切り拓く、たくましい」児童を育成するために、何事にも挑戦する心を大切に育てていきます。